

SUMPU

創刊号無料
アドマック出版



「余ハ此處ニ居ル」
徳川家康公は今も久能山にいる。



聖地久能山
四百年の真実

元和三年(二六一七年)初夏、
久能から日光への「改葬トリック」

特別対談
久能山東照宮
落合偉洲 宮司 × 浮日樓
久保田 隆社長

東照大権現像(久能山東照宮博物館蔵)

静岡商工会議所「余ハ此處ニ居ル」プロジェクト
Design: アドマック出版



平成二十七年
御鎮座四百年大祭

久能山東照宮

余ハ此處ニ居ル

聖地、久能山へ。



元和二年四月十七日、
徳川家康公は駿府城にて薨去され
久能山にて東照大権現という神様になりました
以来四百年、今もなお大いなる御靈験をもつて
私たちの平和を守ってくれています



四百年の聖地久能山へ、日本一の名勝日本平とわずか5分で結びます。

日本平ロープウェイ《日本平山頂に無料駐車場あり》
お問合せは…電話 054-334-2026(静岡鉄道株式会社 日本平ロープウェイ営業所)



久保田

「軀体」の「軀」ですね。

この歌は、「意味がわからない、わからない」と言われてきました歌なんですね。要するに、「ご遺体が久能山にあればある、日光に移つたと思えば移つたと思つてもいいよ」などちにあると思つてもいいよ」と。「ご遺体があるのはどっちでもいいけれども、ここから日光の方に神様を遷したんだよ」ということを歌つたんですね。

その中に「くのなき神の」という中で、「く」がひらがなで書いてあるんだけれど、それを身体の身に駿河区の「区」の「軀」の字だと見て読むと意味がすぐわかるんですよ。



日光東照宮の奥宮御宝塔

久能山では「御廟所」「御神廟」と呼ぶが、日光では「奥宮御宝塔」と呼ぶ

久保田

「奥宮」の前にある建物が宝塔の前にあるんですよ。

久能山東照宮は、「神廟」または「廟所」といつてストレートに「墓所」だと呼んでますけど、日光は、「奥社」または「奥宮」と、呼び方にも違いがありますね。

例祭。このご命日に徳川一家が装束をつけて、本殿でおまつりをされたあと、そのままご廟所に行つて二礼二拍手一拝でお参りをする。日光では、本殿だけでおまつりしてそのまま直会に行かれるんですね。

久保田

日光東照宮の御例祭は、家康公のご命日から一ヶ月遅れて五月十七日と十八日にやつてますね。

落合 ただ日光の場合は、奥社でもおまつりをやつているんですよ。だから宮司が本殿で祝詞を讀んでいる時に、たぶん権宮司か禰宜さんが奥社の方で同じようなおまつりをやつてお参りをする。そこがちょっとことこと違うわけですよ。お祀りするた

久能山東照宮の御神廟(霧の日)



落合

仏様の体とか尊い存在の体を数える時の助数詞の正しい使い方は「躯」というんですよ。だから仏像は一体二体と数える数え方は間違いで、「一躯」「二駆」と数えるのが正しいんですよ。だから家康公の体もこの「躯」で表現した。

だから「くのなき」の「く」を「躯」で読めばすぐ意味がわかるんです。でもそれを漢字で書いちやうと「なんだ」とすぐわかりてしまうでしょう。「遺体は久能山にあって、見えない御靈だけの宮遷しなんだと。だからそれをわざとひらがなで書くことによつてばかしておいたんですね。

久保田

「ばかした」ということで「騙した」ではないと。

まあそういうことですね。歌にこめられた意味もそうですし、それから今のお墓がね、もとは木造だったわけですけれども、幕府の方でこれを反永久的にしようということで、大きな石を、おそらく伊豆半島の淡島あたりから、いかだで久能の前浜まで持つてきて、ここまで引き上げてきて、大きな石の宝塔のお墓を作つた。お墓ができたのは、寛永十七年だから一六四〇年。家康公が亡くなつて二十四年後にああいう石の大さなお墓を作つているわけです。

久保田

三代将軍徳川家光公が大規模にやられた寛永大造替で日光が立派になつた、さらに何年か後ですね。

落合 だから徳川家康公が久能山に埋葬された翌年にもお墓を堀り起こして、そのご遺体を日光まで持つていったとしたらね、久能山はまあ最初のお墓ですと、ここに家康公が埋葬されて、そしていついつ日光に改葬されましたと石標かな

んか建てれば神社としては何も問題ないわけですよ。それをわざわざ二十四年後に莫大な費用をかけて、伊豆から大きな石を運んできて。

久保田

あれは何十トンですよね。

落合

石材組合の偉い人がね、電卓で計算して「宮司さん、

これは石が二十トンないところの形は切り出せないね」と言つてましたから、二十トンの原石を下から運んできてご廟所のところで形を作つたんじやないかと思うんですね。石を彫つて、石の削りくずは石垣の裏に放り込んでいて、石垣の裏の雨水を下に流し落として石垣が崩れないようにするための「裏込め」を使つているんです。非常に無駄なく計算されて作られているわけです。この宝塔形式のお墓が、徳川家康公が亡くなつて二十四年後にできているという事実。

久保田

重要ですよね。御尊体が日光へ行つてしまつたのならここまでつぱなお墓は必要ないということですね。

落合

あとは当時土葬であるということね。火葬だつたらも

ちろん分骨をしていくんだろうけど、分骨はできない。それを掘りおこして一年後にもつていくのはまず不可能だろうということですね。条件が悪ければ全部白骨になつていいない可能性もあるわけだし、地面の中に埋めているわけですか、棺そのものも腐つたりする可能性があるわけです。から、棺そのものも腐つたりする可能性があるわけですね。

久保田

旧暦三月から四月、晩春から初夏で暑い日も考えられました。三週間近くかけた大行列で、そういう

ものを持ち運ぶ計画はまず無理だろうと。

(次号へ続く)

ちつとおしゃれしょ?

スンプナコトバ

東京弁に押されてあんまり使われなくなってしまった駿府な言葉を紹介します。

いただきました!

意味、わかります? え? 普通に標準語だろですか? ……いえいえ。(笑) 標準語に訳すと「ごちそうさまでした!」食事をいただいたあと、昔はみんな一斉にこう言ったものなんです。愛知県など中部地方で広く使われている言葉です。もちろん食後は

高級本山茶。東京あたりだとあまり飲まないような上等のお茶、駿府ではどこの家でも浴びるように飲んでますね。(誇張あり)

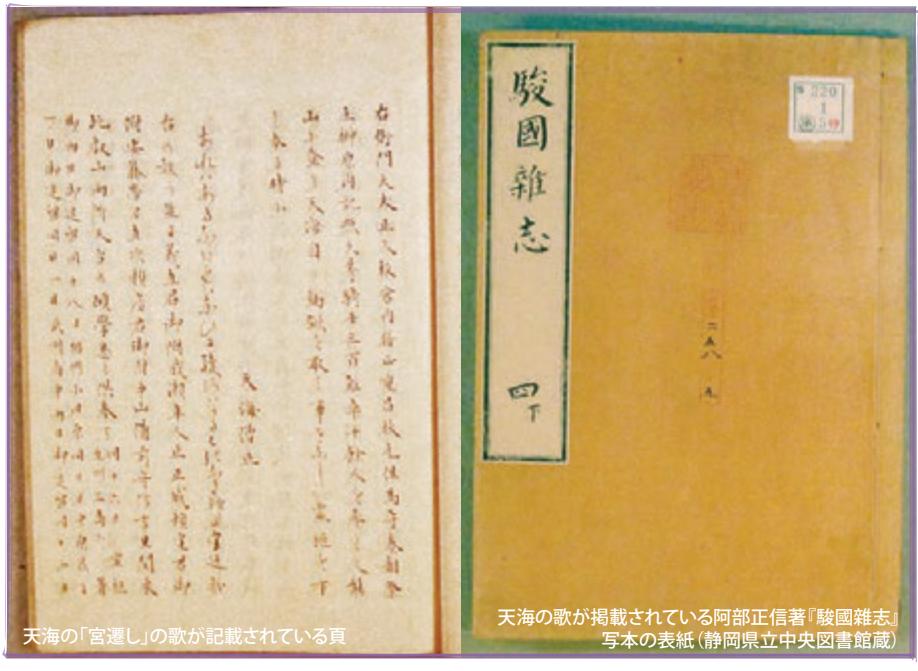


駿府はかせちゃん

The First English Samurai み うら あん じん 三浦按針



イギリス人航海士ウィリアム・アダムス。日本名三浦按針。1600年4月、オランダ船リーフデ号により豊後の臼杵に漂着。「イギリス人は異教のプロテスタントだ」といってイエズス会が処刑を要求したが、家康公はそれを黙殺。江戸や駿府で外交顧問として重用した。日本初の洋式帆船サン・ブエナ・ベンツウラ号を建造した功績から、帶刀も許される旗本になった人だ。



天海の「宮遷し」の歌が記載されている頁
写本の表紙(静岡県立中央図書館蔵)

家康公の御遺命「余は久能山におる」

家康公の晩年を駿府城にて南光坊天海らと共に側近として仕えた僧。それが本光國師こと金地院崇伝だ。崇伝は自分の手紙の記録を主とする日記を遺していく。江戸幕府の公式記録『徳川實紀』でもたびたび引用されている。その『本光國師日記』には、家康公の遺言がこう記録されている。

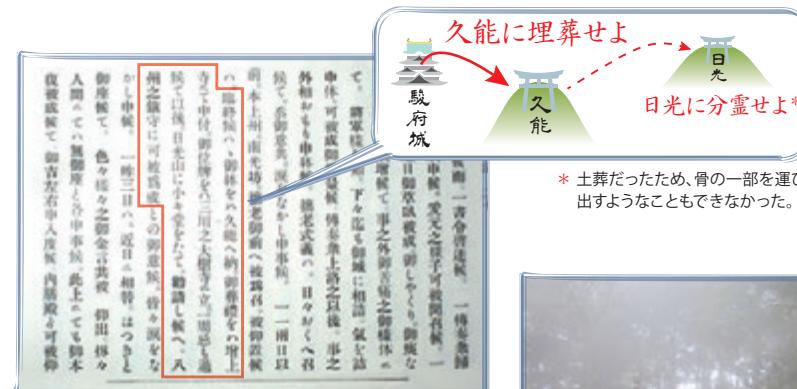
「死後は駿を久能へ納め、葬式は増上寺にて行ない、位牌は三河の大樹寺に立て、一周忌の後、日光山に小さき堂を立て勧請せよ。八州の鎮守になろう」

これが元和二年（一六一六年）四月二日、家康公が駿府城で崇伝らに実際に言われた言葉だ。

日光について出てくる「勧請」とは「神仏の来臨を乞いその靈を祀る」という意味。家康公は「体を久能山に埋葬せよ」と命じ、「翌年日光にその靈を祀れ」と命じたのだ。

ところがいつしか世間では「遺命に反して遺骸は日光に運ばれた」と信じられるようになってしまった。勧請の指揮と実行にあたった南光坊天海らはみどこまでも家康公を敬愛し、崇拜した人たちだ。その人たちが共謀して家康公の御遺命に背くということは到底考えられない。

もしそこに何かがあつたとすれば、それは幕府が「遺骸を日本中がそれに騙されたということなのかもしれない。



『新訂本光國師日記』(昭和43年続群書類從完成会刊)より
もとは筆文字だったが、活字にされて読みやすくなっている

西を向いて建つ久能山徳川家康公の御廟所。家康公の御命日である久能山東照宮例祭には、御宗家(徳川家十八代ご当主徳川恒孝氏)がこの墓所をお参りされるのが、翌月の日光の例祭では日光にも墓所があるのにお参りはされないと聞く。お墓というより奥社という意味が強いからだろうか。



幕府のトリックだつた「日光への宮遷し」

「一周忌の後、日光山に小さき堂を立て勧請せよ」

家康公の御遺命に従い、久能山で「勧請」が開始された。元和三年（一六一七年）三月十五日のことだ。

大御所家康公に側近として仕え、御遺命決定にも関わって鋤鉗を取つて立ち、この大事業の指揮にあたつたともいう。その様子はまるで御遺骸を本当に運び出そうとしたかのようだつたが、もちろん、日光へと運ばれる靈柩に納められたのは、人の目には見えない御靈であつて御遺骸そのものではなかつた。すべては御遺命どおりだつたのだ。

ただ天海は、これを「勧請」とは言わず、なぜか「宮遷し」と言つた。このとき天海は久能山に左の歌を残し、その中ではつきり「宮遷し」と詠んだのだ。これはいつたいどういうことか？

あれはある奈け連ハ奈ひ尔駿河なる
く能奈き神の宮遷し哉

実はこの歌には「トリック」が隠されていたのだ。全体的に意味のわかりにくい歌だが、特に奇妙なのは、赤字にした「くの」の部分だ。まず「の」の字をわざわざ「能」の変体仮名にして「久能」と読めるようにしてあるが、「久能なき神の宮遷し」と読んだのでは意味が通らない。

そこで今度は「の」を助詞の「の」と見る。するとそこで仮名の「く」の意味は?となるが、唯一「く」で意味が通るのは「一転、二転」と、仏像などの御尊体を数えるときの「転」だ。天海は「く」の仮名に「御尊体」という意味を込めたのだ。それには「転」という生々しい漢字を避ける目的もあっただろうし、御尊体の在り処「駿河なる久能」を織り込むためもあつたのだろう。つまり天海はこの歌で「御尊体なき宮遷し」と言い、「宮遷しは我々のトリックだ」と言いのこしたのだ。そう読んではじめて歌全体の意味も通つてくる。

靈柩の中に御尊体があると思つてもないと思つてもどちらでも良い。しかしその実態は家康公の御分靈を日光に祀る宮遷しなのだ。

天海ら幕府は、その後も久能山を守りつけたが、一方で世間の耳目を日光に集めようと尽力した。久能山には神聖なる真の墓所としての役割があり、日光は日光で、幕府の安泰をはかる上での大重要な役割があつたからだ。

聖地久能山は、パワースポットだつた！

ヨココヲ
ノオト「余ハ此處ニ居ル」三

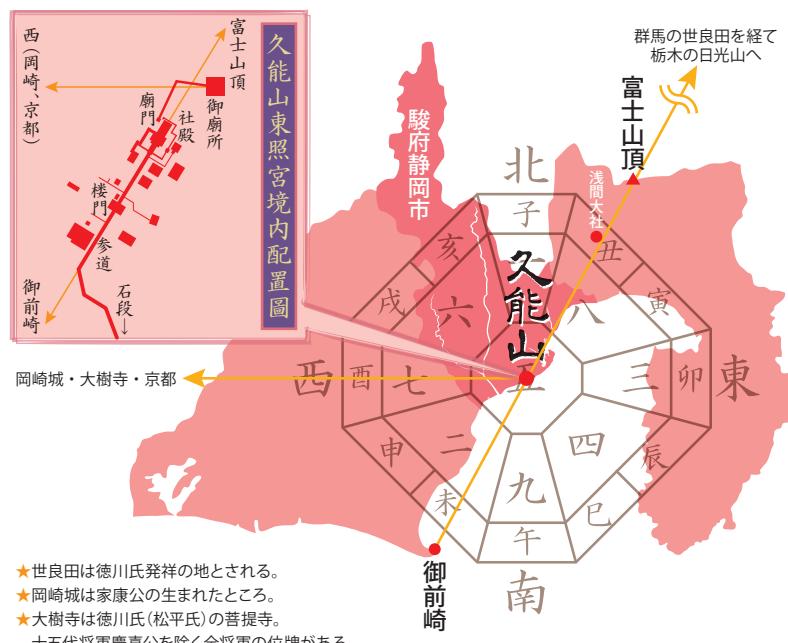
久能山東照宮は、参道→楼門→社殿の直線が、まつすぐ富士山頂に向けて配置されている。だから社殿に参拝すれば同時に富士山も拝んですることになる。

富士山頂から見ると→久能山→御前崎という方角は、南西の未の方角。逆に御前崎→久能山→富士山と向かうのは丑の方角で、さらにずっと延ばしていくと、群馬の世良田を通つて日光に至る。どちらにも東照宮がまつられている。

家康公は久能山に自分を葬れと命じたが、同時に、西に向けて埋葬せよとも命じ、廟所(墓)は真西を向く。西には岡崎城、岡崎には大樹寺★、さらに京都に至る。京都からまつすぐ東へ行つて駿河湾に出たところが久能山だから、京都から見ると家康公は日の出るところにいることになる。

久能山とは、このように特別な位置にある特別な聖地だったのだ。それを私たちは「パワースポット」とも呼ぶ。

そこに未知の力が働いていないとも言いきれないが、目に見えて明らかなのは、人々の意識がそこに集中することだ。そこに人々が神聖なものを感じるとなれば、「パワースポットだ」という共通の認識が生まれてくるのだろう。少なくとも、久能山で感じる神聖な空気は疑いようのないもの。これでご利益がなかつたとしたら自分のせい。権現さまのせいにしてはいけない。



★世良田は徳川氏発祥の地とされる。

★岡崎城は家康公の生まれたところ。

★大樹寺は徳川氏(松平氏)の菩提寺。

十五代將軍慶喜公を除く全將軍の位牌がある。

究極のご利益を得る方法

『生かす意志』を主人として生きる。



『生かす意志』の尊さを説く
久能山東照宮ご社殿正面の彫刻「かめわり」

をどうやって築いたかを史実に問うと、人を理解し尊敬する力のきわだつていたことがわかつてくる。家康公はまさに生かす意志そのものとして生きたのだ。

生きているうちからそんなに神がかつていたのだから、権現さまを信心してご利益のないわけがない。ということで、以下がそのご利益を授かる具体的な方法だ。

楼門を抜け、社殿に向かつて立ち、心静かに手を合わせれば、余計な思考を停止することができ、脳の支配から解放してもらうことができる。ここで権現さまや神々の存在と共鳴する。あとは日々、生かす意志を主人と意識して、身近な人たちを深く理解し尊敬して暮らす。これを『信心』の本筋とする。

以上を統ければ、純粹なる生かす意志である権現さまは惜しみなく力を貸してくれる。そのおかげで身近な人たちとの信頼関係が増しに強くなつていくから、私たちは本当の幸福と本当の成功、さ

らに高い人格という、究極のご利益を授かることになる。

久能の山の上には、生かす意志をひときわ強く感じさせてくれる神さまがいる。東照大権現こと、徳川家康公だ。

家康公が戦国の世をどう生きたか、家臣たちとの強固な信頼関係

究極のご利益を得る方法

究極のご利益を得る方法を紹介する。ただその前に、拙著『パワーストリー』から『生かす意志の話』も紹介しなければならない。「宗教と科学の共通原理」を解く試論で、大事な前提になるからだ。

私たちは思考したり記憶したりする脳のことを自分だと思いがち。だが実際は、脳も体と同じで私たちの持ち物でしかない。持ち物には持ち主がいて、それは昔から「魂」と呼ばれているものなのだが、実体がつかめないため「科学的には存在しない」と言われてしまう。そこでこれを『生かす意志』と特定する。

脳が考える意志とは異なり、生かす意志は「死んで脳がなくなつても存在しつづけるもので、それは『宇宙の意志』、『神の意志』などと考えられている『共存の原理』に通じるものだ。

問題は人が脳＝自分と錯覚すること。人の唯一の欠点は、大きすぎる脳に支配されやすく、生かす意志を見失いやることだ。

生かす意志＝自分と意識し、人を理解し、尊敬して生きること。自分で守りたがる脳の強い機能に支配されてしまわないこと。そうすることで、私たちは本当の幸福と成功を手に入れれる。

以上がその要約だ。さてここからがご利益の話。

久能の山の上には、生かす意志をひときわ強く感じさせてくれる神さまがいる。東照大権現こと、徳川家康公だ。

オシラセトゴアンナイ

徳川家康公のご遺骸が久能山東照宮で眠り続けているという事実。それを広く世界に伝え、聖地久能山のご利益を、これからも読者の皆さんと分かち合いたいと思います。来年は御鎮座四百年大祭。『すんぶ』第二号は、二月十八日水曜日の発行予定です。

次号も権現さま徳川家康公について特集。今より人の命がはなかつた時代を、理解、尊敬、人を生かす意志で生きた徳川家康公に、小誌ならではのシンプルなアプローチでさらにお届けします。

久能山東照宮で、またお会いしましょう！

最大限のご利益を！

広告募集のお知らせ

今いちばんホットな聖地、久能山東照宮。御鎮座四百年大祭を迎える全国から参拝客が訪れてています。

- ◎久能山東照宮ほかで3,000部以上配布！
- ◎発行日は2、5、8、11月の大安の日！
- ◎久能山を訪れる全国の人の手から手へ！
- ◎コンパクトサイズで女性のバッグにも！
- ◎しっかり製本。永久保存。長く読まれます！
- ◎様々な業種歓迎！ ◎コスパ高いお得な掲載料！

広告の掲載数には限りがあります。
お申し込みはお早めに！

アドマック出版
☎054-340-6100 ✉pub@admac.jp

季刊すんぶ 第1号

2014年11月1日 第1版発行

発行者 興津 誠

発行所 アドマック出版(アドマック株式会社出版事業部)

〒422-8046 静岡市駿河区中島 1185-1

☎054-340-6100 ✉pub@admac.jp

http://sumpu.net (季刊すんぶ「駿府ネット」)

http://admac.jp (アドマック出版)

©Copyright 2014 Admac Inc. Shizuoka Japan All Rights Reserved. Printed in Japan



徳川慶喜公屋敷跡

 浮月樓

一度きりの人生でしょ?
そのまま老けていいの?

Cosmopalms

最後の自己実現コスマバーム  cosmopalms.com

アドマック出版